

RA協議会 第3回年次大会 (2017. 8. 30)

私立大学の研究力強化

岡山理科大学の研究支援体制

研究・社会連携機構 副機構長 松浦 洋司

ENJOY SCIENCE!

ボクラ、科学の子。



岡山理科大学

OKAYAMA UNIVERSITY OF SCIENCE

今日の内容

1. 岡山理科大学の概要
 - ・方針(建学の理念、ビジョン2026、中期計画)
2. 岡山理科大学の研究力
3. 研究支援体制の改革
4. 最近の研究支援具体事例
 - ・岡山理科大学プロジェクト研究推進事業
 - ・私立大学研究ブランディング事業
 - ・科学研究費申請書ブラッシュアップ事業
 - ・ワイン発酵科学センター
 - ・モンゴル国立教育大学との協定
5. 今後の課題
 - ・持続可能な体制の基盤整備
(共同研究強化、効果的な成果発信の仕組みづくり等)

岡山理科大学の全体像

■昭和39年度開学(1学部2学科:理学部 応用数学科・化学科)

■平成29年度 6学部19学科1コース

中規模の地方私立大学

理学部	理学研究科
工学部	工学研究科
総合情報学部	総合情報研究科
生物地球学部	生物地球学研究科
教育学部	
経営学部	



理工系の特色を生かした総合大学

■学生数 学部:6022人 大学院:216人

■教職員数 教員:315人 職員:113人



岡山理科大学

岡山理科大学の方針



ビジョン2026

「**学生の成長に主眼をおく人材育成拠点**」柳澤学長宣言

1. 学生ひとりひとりが**成長**を実感できる人材育成拠点
2. 教育を支える個性的で魅力ある**研究**を推進する大学
3. 世界から人々が集い、**国際性**豊かに人材を輩出する大学
4. **地域**の課題解決や活性化に貢献し、地域とともに発展する大学
5. 明確な方針と的確な組織マネジメントに基づく**内部質保証システム**の確立

岡山理科大学の方針

ビジョン2026（研究・社会連携関係項目）

2. 教育を支える個性的で魅力ある**研究**を推進する大学
 - ・学内外の教員・研究者との共同研究の促進
 - ・国際的視野に立った先端的・学際的な研究の展開
 - ・最新の研究成果の教育への反映
 - ・プロジェクト研究の推進や研究の重点化によるブランド力の向上
 - ・全学的な研究推進体制の強化
 - ・教育研究環境の整備
4. **地域**の課題解決や活性化に貢献し、地域とともに発展する大学
 - ・地域の発展の貢献できる研究の展開
 - ・産業界や自治体など地域のステークホルダーとの協働

岡山理科大学の方針

教育研究組織（H28から）

学外連携推進室

6学部19学科1コース

教育支援機構

学生支援機構

研究・社会連携機構

入試広報センター

IRセンター

情報処理センター

図書館

研究・社会連携センター

自然科学研究所

技術科学研究所

自然フィールドワークセンター

ワイン発酵科学センター（H29から）

恐竜学博物館（H29から）

総合機器センター

工作センター

アイソトープ実験施設

学部や研究所などを横断的に統括し
研究に関する全学機能を発揮する。

岡山理科大学の研究力(文科省補助金事業)

学術フロンティア推進事業(H15~H19)

粒子線と物質の相互作用に関するシミュレーション科学の新たなる展開

オープン・リサーチ・センター整備事業(H17~H21)

地球型惑星の物質科学と歴史探究

ハイテク・リサーチ・センター整備事業(H18~H20)

環境調和型化学

社会連携研究推進事業(H18~H22)

地域社会とのコラボレーションによるQOL向上の一体的アプローチ

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(H21~H25)

環境問題と希少元素資源の枯渇に対処するための研究(グリーン元素科学)

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(H23~H27)

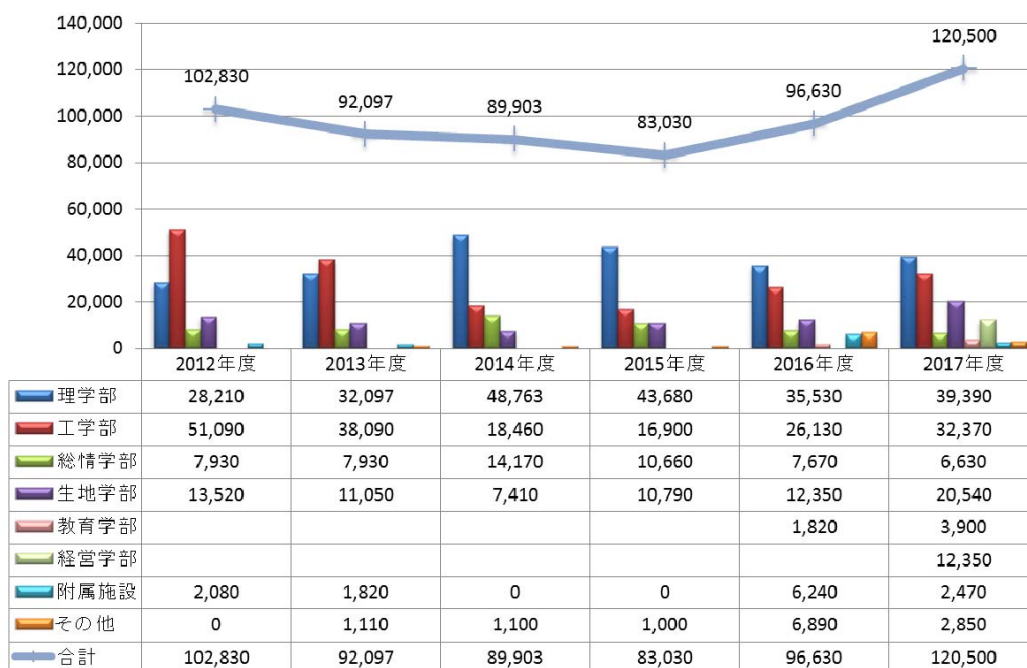
鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(H24~H28)

QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点形成

岡山理科大学の研究力(科研費)

科研費 採択金額の推移(2012年度~2017年度) ※単年度



岡山理科大学の研究力(共同研究)

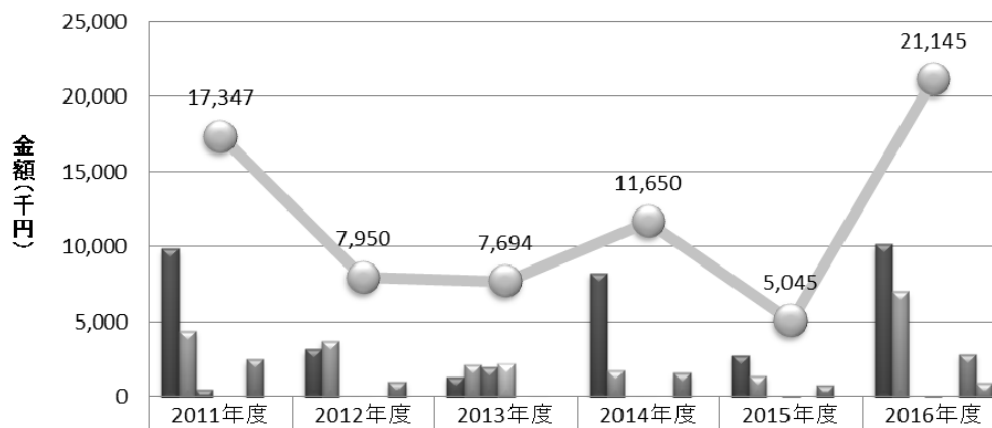


岡山理科大学の研究力(受託研究)



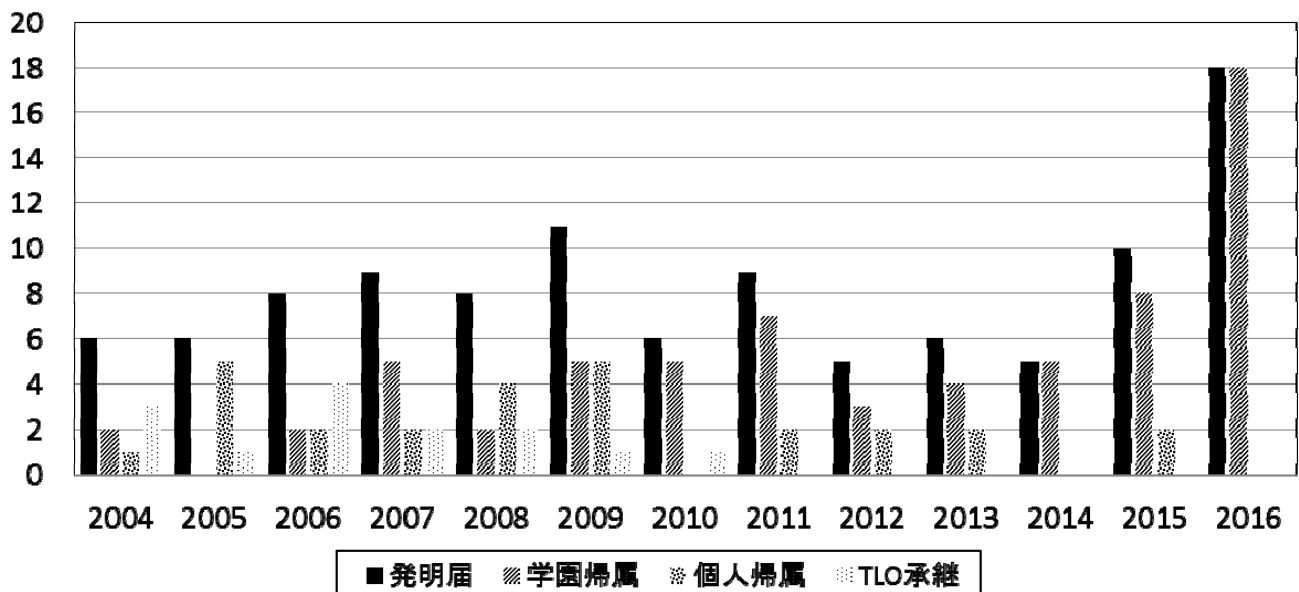
岡山理科大学の研究力(寄付金)

寄付金 金額の推移(2011~2016年度)



	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
理学部	9,880	3,200	1,351	8,250	2,795	10,200
工学部	4,417	3,750	2,150	1,800	1,375	7,030
総情学部	525	0	1,993	0	0	0
生化学部		0	2,200	0	100	100
教育学部						0
附属施設	2,525	1,000	0	1,600	775	2,872
共通						943
金額合計	17,347	7,950	7,694	11,650	5,045	21,145

岡山理科大学の研究力(知的財産権)



岡山理科大学の研究力(これまでの取組)

OUSフォーラム
 研究シーズの情報発信
 研究室インタビュー
 OUS研究者ナビゲーター
 (Web版、冊子版)
 知的財産権セミナー



OUS研究者ナビゲーター next 50
 TEL.086-256-9731 FAX.086-256-9732
 renkei@office.ous.ac.jp

名前・研究分野・テーマ

理学部 工学部 総合情報学部 生物地球学部 教育学部 経営学部 附属施設等

バイオ・応用化学科 機械システム工学科 電気電子システム学科 情報工学科 知能機械工学科

生命医歯工学科 建築学科

工学部 > 知能機械工学科

工学部 知能機械工学科

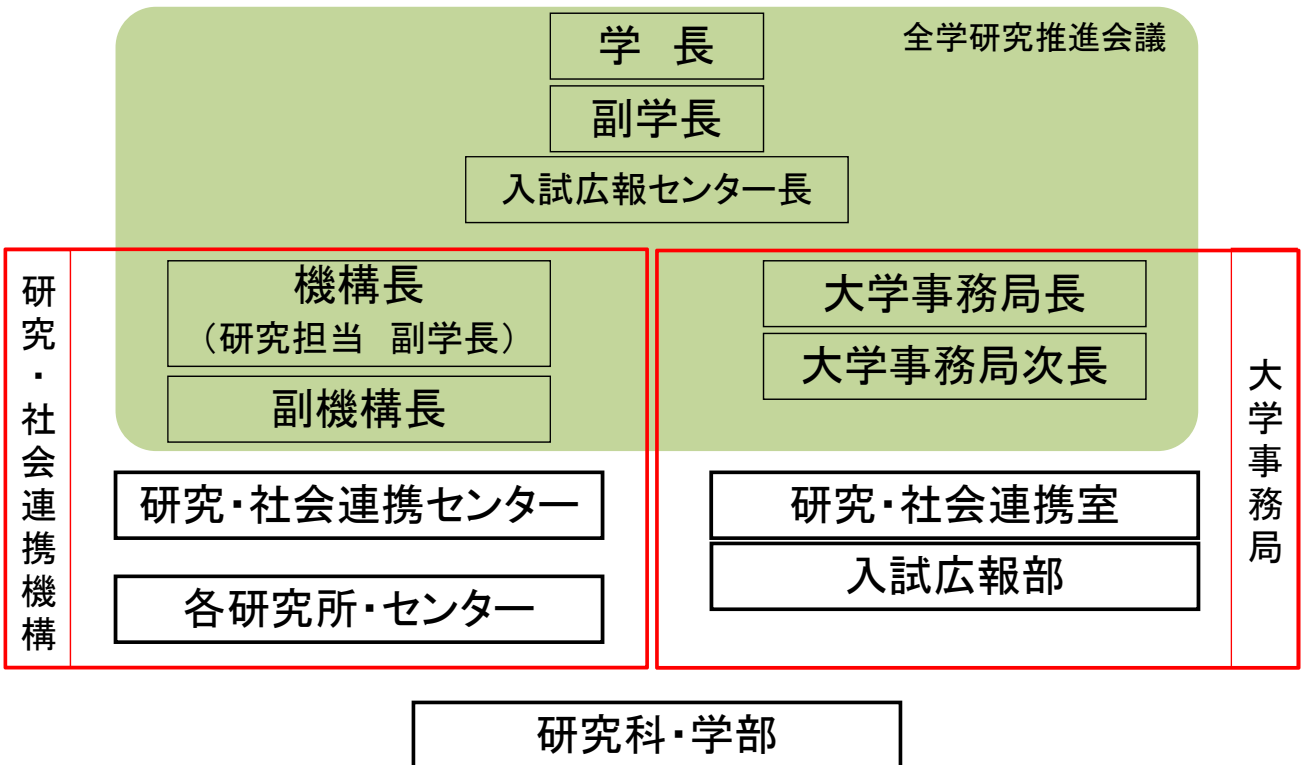
教授 赤木 徹也
 研究分野: マイクロニクス、機械制御工学、空気圧制御
 キーワード: ウェアラブルアクチュエータ、制御機器、マイコン

教授 荒木 圭典
 研究分野: 流注・プラズマ物理学、ユニバーサルデザイン
 キーワード: コンピュータシミュレーション

ENJOY SCIENCE!
 ボクラ、科学の子。

岡山理科大学

研究支援体制の改革



ENJOY SCIENCE!
 ボクラ、科学の子。

岡山理科大学

最近の研究支援具体事例

岡山理科大学プロジェクト研究推進事業

H28 応募件数11件
私立大学研究ブランディング関係5件
上記以外6件
募集期間:H28.4.1~4.28
選考会:H28.5.6(ブランディング関係)
H28.6.7(上記以外)

文部科学省 私立大学
研究ブランディング事業
公募通知:H28.5.30
提出期限:H28.8.22
結果通知:H28.11.22

H29 応募件数6件
私立大学研究ブランディング関係1件
上記以外2件
若手3件
募集期間:H29.2.27~3.15
公聴会:H29.4.19
選考会:H29.4.28

公募通知:H29.3.28
提出期限:H29.6.8

最近の研究支援具体事例

私立大学研究ブランディング事業



化石そのものに年代測定技術を適用し年代を推定
生理生態学的分析手法による生物的特徴の解明

最近の研究支援具体事例

私立大学研究ブランディング事業

	社会展開型 タイプA		世界展開型 タイプB		合計	
	申請校数	選定校数	申請校数	選定校数	申請校数	選定校数
北海道・東北	19 (4)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	20 (4)	2 (0)
関東・甲信越 (東京都除く)	16 (2)	1 (0)	7 (0)	2 (0)	23 (2)	3 (0)
東京都	16 (1)	2 (0)	38 (1)	15 (0)	54 (2)	17 (0)
北陸・東海	20 (1)	5 (1)	6 (0)	1 (0)	26 (1)	6 (1)
近畿	18 (2)	2 (0)	15 (0)	4 (0)	33 (2)	6 (0)
中国・四国	16 (1)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	17 (1)	3 (0)
九州・沖縄	24 (7)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	25 (7)	3 (0)
計	129 (18)	17 (1)	69 (1)	23 (0)	198 (19)	40 (1)

※括弧内は短期大学(内数)

最近の研究支援具体事例

科学研究費申請書ブラッシュアップ事業

H28

応募件数 122件 (46%)
採択件数 62件
採択金額 96百万円

新規応募件数 89件
採択件数 18件

H29

応募件数 180件 (73%)
採択件数 77件
採択金額 120百万円

新規応募件数 144件
採択件数 35件
ブラッシュアップ 90件
採択件数 18件
ブラッシュアップ率 63%

最近の研究支援具体事例

ワイン発酵科学センター(H29.4開設)

岡山県新見市、tettaとの産学官連携



岡山県倉敷市、船穂ワイナリ
岡山県真庭市、蒜山ワイナリ



最近の研究支援具体事例

モンゴル国立教育大学との包括協定締結

好適環境水を利用した魚の養殖
技術のアジア内陸国への展開

常

識では、つくれなかった水
海水は約60種類のミネラルで構成されています。ここでまず海水魚が生きていくために不可欠な元素の特定に挑みました。水からは海水の成分を薄やしている。逆に海水からは不要成分を排除しながら、水と海水の両面から検討しました。成分が増えると、組み合わせは量の数ほどになります。そして4年かけて、必要なカリウム、ナトリウムなど数種類の成分と濃度を特定。細かな成分については明かせませんが、こんな成分で生きていけるんだという驚愕の結果でした。常識にとらわれてはいけないということを手学びました。



最近の研究支援具体事例

安全保障技術研究推進制度

世間の動静

H29.3.24日本学術会議「軍事的安全保障研究に関する声明」

H29.3.29～5.31防衛装備庁「安全保障技術研究推進制度」公募

H29.8月初旬から中旬
面接審査(二次審査)

H29.8 結果通知

本学の動き

H28年度:研究分担者として
研究課題採択

H29.4～5月方針検討・決定
(全学研究推進会議)

H29年度:研究代表者として
応募(工学部1件)

今後の課題

研究ブランディング事業:画期的恐竜研究の展開

プロジェクト研究の推進:研究の重点化、文理融合型学際研究

地域連携研究の推進:ワイン発酵科学センターの展開

研究費申請支援体制:申請書ブラッシュアップ制度

共同研究強化:「組織」対「組織」の産学官連携体制の構築

効果的な成果発信の仕組みづくり

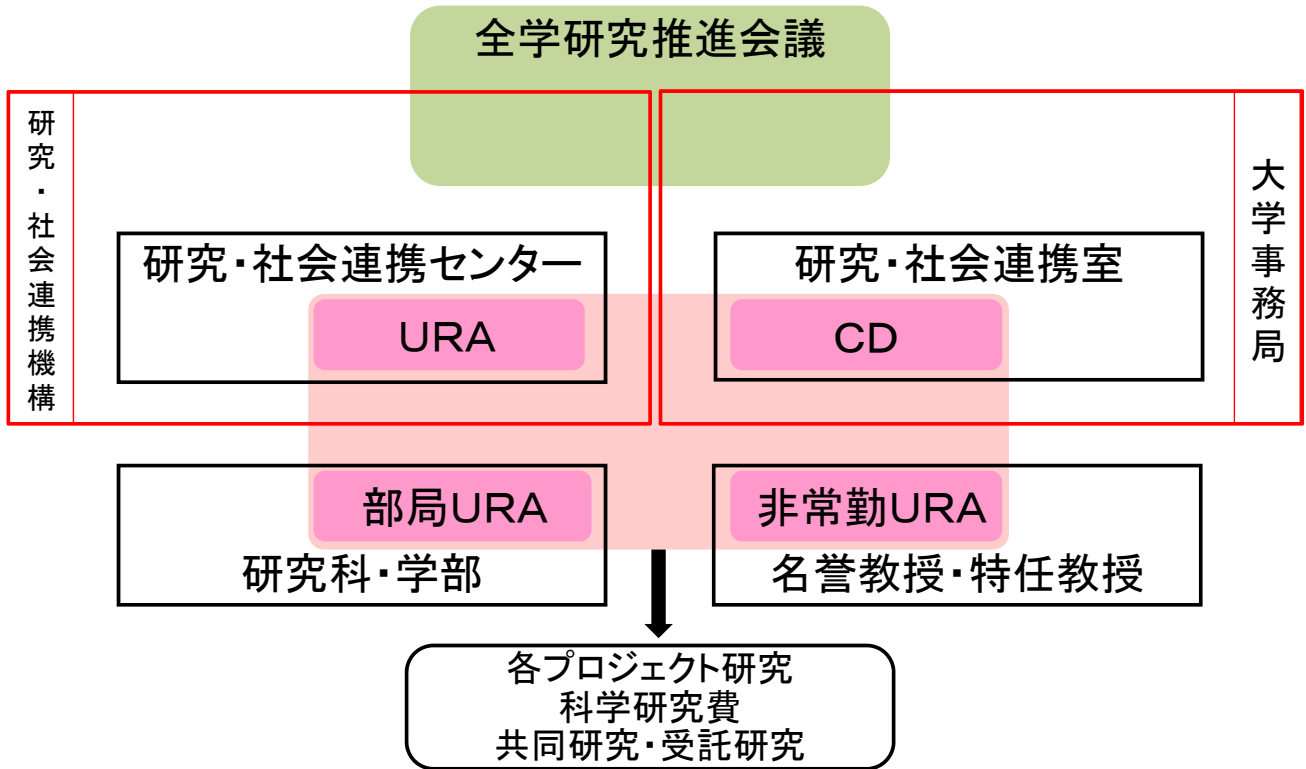
全学研究推進会議を中心とするPDCAサイクルの実質化

IRセンターと連携して文科省を始めとする情報の収集・分析

研究所・センターの再編

持続可能なURA体制の基盤整備

研究支援体制(副学長を中心とするURA体制)



ENJOY SCIENCE!
ボクラ、科学の子。

岡山理科大学
Okayama University of Science



関西大学のアウトリーチのかたち

豊臣期大坂図屏風コンサート

RA協議会私大セッション
私大の研究強化への新しい取り組みⅣ

関西大学URA 館正一

2017830

館 正一（やかた まさかず）

関西大学 学長室

リサーチ・コーディネーター

サイエンス・コミュニケーター

イベント・コーディネーター

<得意なこと>

ブランディング戦略

プロモーション企画・戦略・実行

<前職>

・自営 デザイン/アートディレクション

・株式会社電通 大手CVS 販促マネジメント

・NPO法人ダヴィンチ・ミュージアムネットワーク

（レオナルド・ダ・ヴィンチアンドロイドのPR）

ダヴィンチ・アンドロイド



大阪大学

関西大学

大阪商工会議所

公益社団法人関西経済連合

大阪市経済戦略局

レオナルド・ダ・ヴィンチ国立科学技術博物館(イタリア)

在大阪イタリア総領事館

イタリア文化会館- 大阪

浅田 稔

大阪大学大学院工学研究科知能
機能創成工学専攻教授

関西大学の研究力

在学生 約30,000人

教職員 約700名

卒業生 約43万人



1972年 高松塚古墳壁画 発見



「オーストリアの古城に、こんな屏風があるのですが・・・」



バーバラ・カイザー博士
オーストリア・エッゲンベルク城博物館
主任キュレーター



オーストリア グラーツ市 エッゲンベルク城



エッゲンベルク城「日本の間」

??!!

「まぎれもなく豊臣家が栄華を誇った時代の大坂城である。
なぜ、オーストリアにあるのだ?!」



高橋 隆博
関西大学名誉教授
文学部 総合人文学科 日本史・文化遺産学専修



藪田 貫
・関西大学名誉教授
文学部 総合人文学科 日本史・文化遺産学専修
・兵庫県立歴史博物館館長

共同研究に関する学術協定

豊臣期大坂図屏風



オーストリア
ヨアネウム博物館

関西大学

ドイツ
ケルン大学



2013年 関西大学・大阪都市遺産研究センターが調査



NHK「歴史秘話ヒストリア ～古城に眠る秀吉の“Beobo”～
新発見「大坂図屏風」の不思議な旅路～」



NHK「ハイビジョン特集 新発見大坂図屏風の謎
～オーストリアの古城に眠る秀吉の夢～」

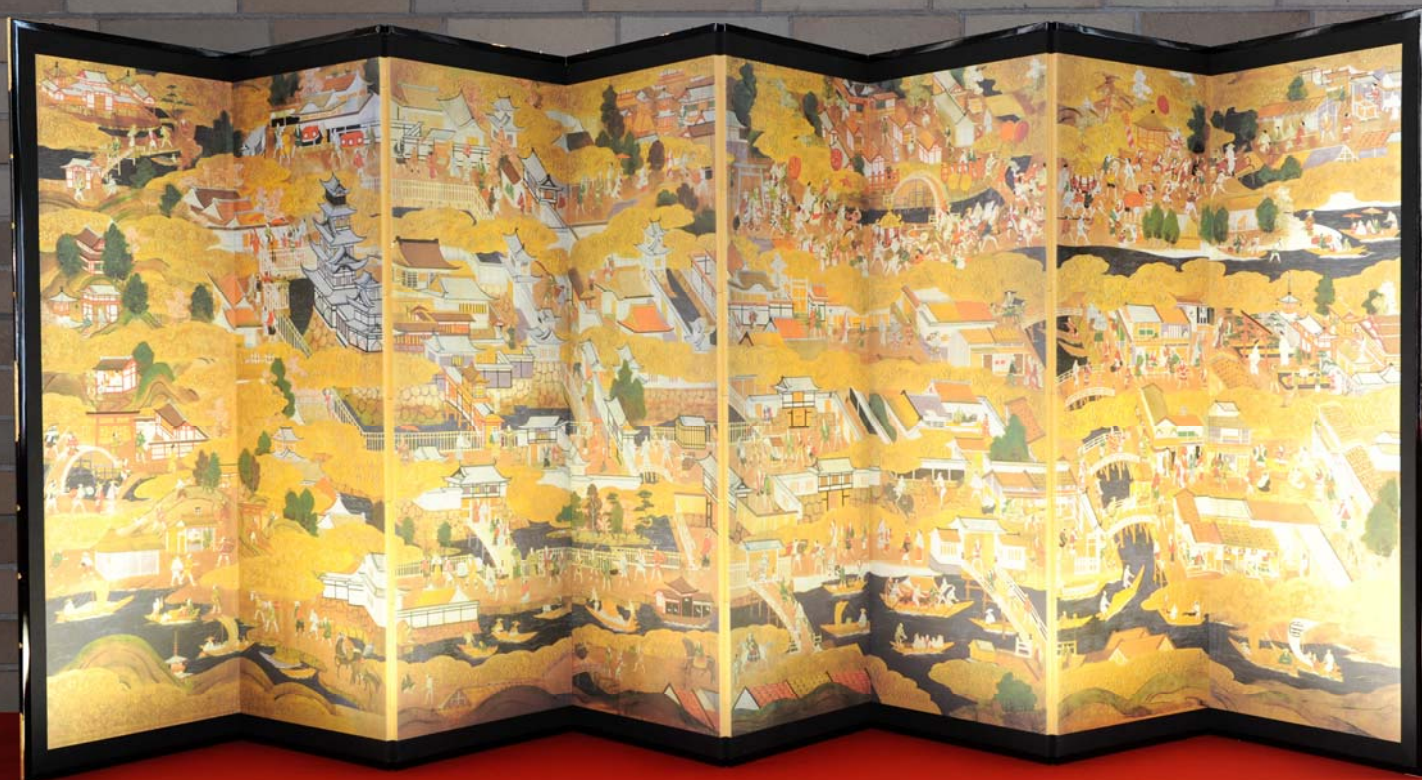
「日本から屏風がグラーツにやってきました、
次はグラーツから音楽をおくりたい」







「豊臣期大坂図屏風」 緞帳
フェスティバルホール





グラーツ・フェスティバルストリングス、関西大学交響楽団
関西大学混声合唱団ひびき、関西大学グリークラブとの合同演奏

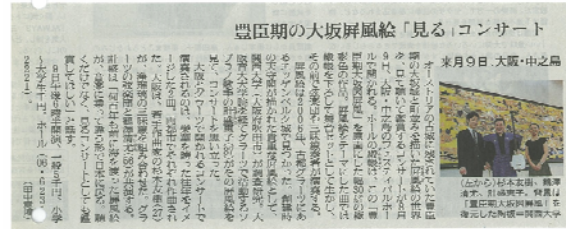


資金集め





朝日新聞8月10日(取材記事掲載)



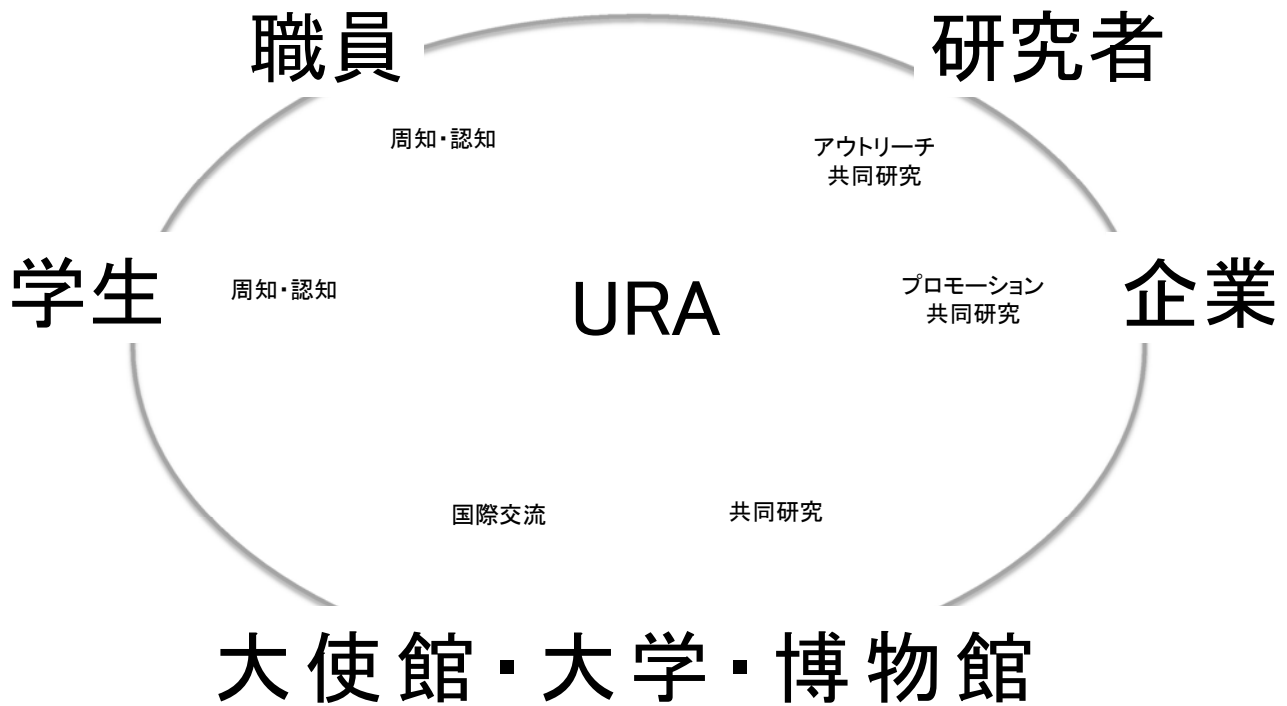
朝日新聞7月28日(取材記事掲載)



オーストリア、国内でWebメディアでの取材



日経新聞8月3日(取材記事掲載)



内閣府

「国民との科学・技術対話」

「どんな学問の成果も、一般の市民に理解できなければ、真の価値はない」

レスター・サロー(元MIT教授 米経済学者)

さらなる取り組み

関大メディカルポリマー
(平成28年度私立大学研究ブランディング選定事業)

関西大学
平成28年度私立大学研究ブランディング事業選定

KU-SMART PROJECT

Smart Materials for
Advanced and Reliable Therapeutics

「人に届く」関大メディカルポリマーによる未来医療の創出

2016 (平成28) 年度
進捗状況報告 掲載

トップ | プロジェクトの意義 | プロジェクト概要 | 研究紹介 | メンバー・実績 | 活動報告

ブランディング化へむけた戦略立案と実行

- ・プロモーションのロードマップ設計
- ・インナー広報 -職員、学生、研究者-
- ・デザイン統括(ロゴデザイン設計、イメージカラー設計)
- ・学内広報施策(チラシ、ポスター掲示)
- ・アウター広報 -企業、研究者、自治体、学生-
- ・プレスリリースの発行(ターゲットごと分ける)
- ・メディア・バイイングの設計、企画
- ・Web,パンフレットの統括(コピーワークなどコンテンツ調整)
- ・ビデオの作成(構成案)
- ・展示会への出展
- ・シンポジウムの運営指揮



- ・各施策の見直し

マーケティング志向とコスト志向

- ・業者選定

THANK YOU

RA協議会第3回年次大会
M-1: 私立大学の研究力強化
私大の研究力強化への新たな取組Ⅳ

「ネットワーク型URA」による新たな価値創造

2017年8月30日@徳島



順天堂大学 研究戦略推進センター
菅原 剛彦 URA



報道発表資料

研究大学強化促進事業採択 センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム採択 戦略的研究基盤形成支援事業採択

**電気通信大学・順天堂大学・星薬科大学による
学術連携交流協定の締結**

～「ネットワーク型URA」による新たな価値創造～
(組織間異分野連携体制の構築)

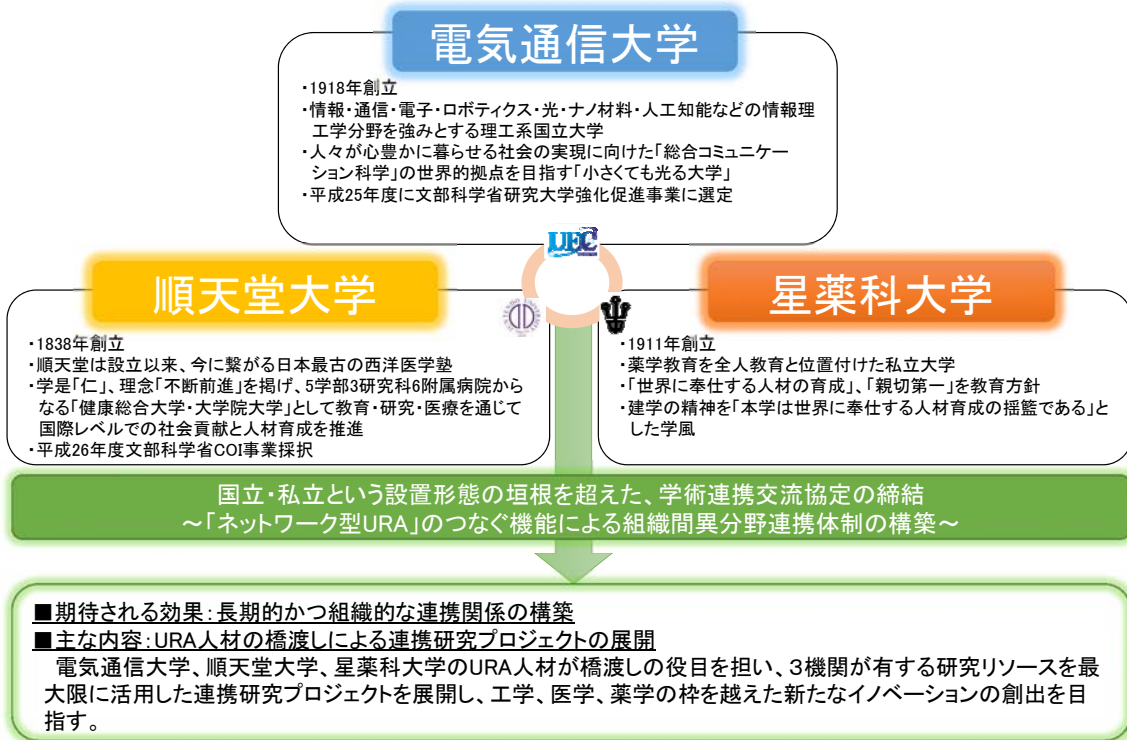


平成28年12月1日



紹介事例1

3者間連携協定の全体像



紹介事例1

背景・経緯

H25 電通大が文部科学省研究大学強化促進事業に採択される。
～「ネットワーク型URA」を提唱～



H26.12～ 電通大と順天堂大との間で、「ネットワーク型URA研修システム」を通じたURA人材の定期的な交流を開始。



H27.9.29 順天堂大と星薬科大が学術交流協定を締結。



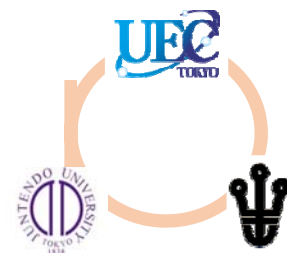
H28.4～ 星薬科大が「ネットワーク型URA研修システム」に参加。
3機関URA人材の橋渡しによる異分野融合プロジェクトの可能性についての検討開始。



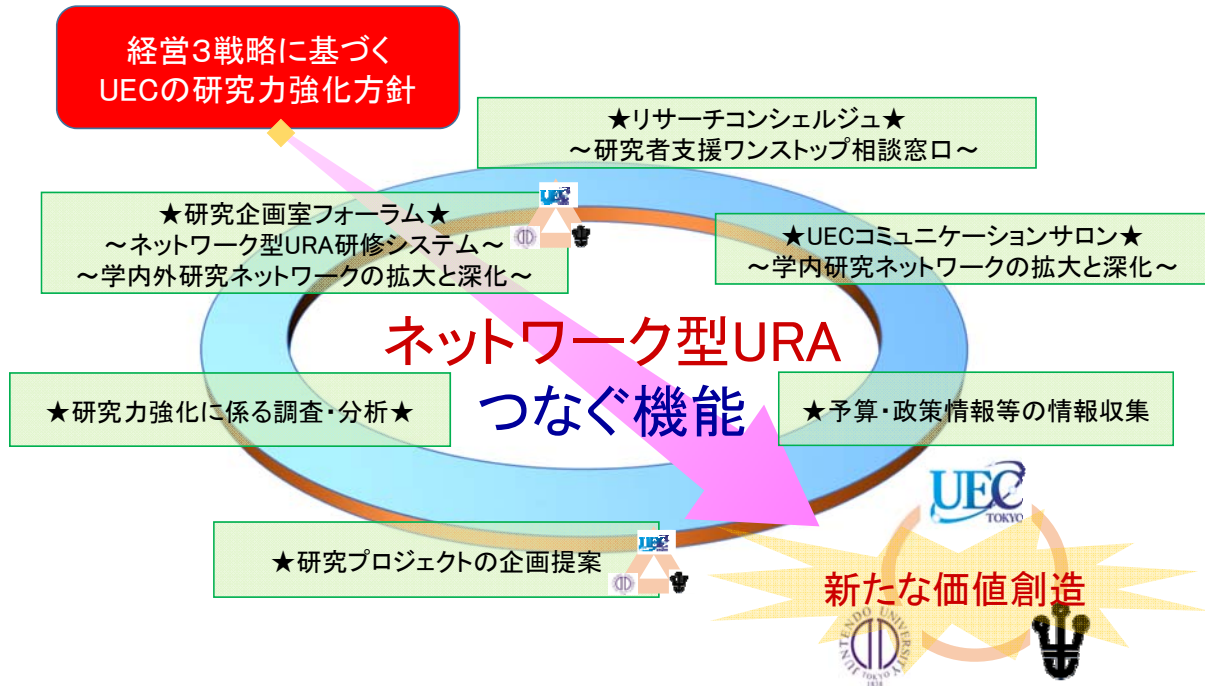
H28.12 3機関の組織的連携関係を更に強固にし、
ネットワーク型URAのつなぐ機能により、

- ・工学(電通大)
- ・医学(順天堂大)
- ・薬学(星薬科大)

3分野の異分野連携を促進するため、
学術連携交流協定を締結。



ネットワーク型URAの活動



本協定の意義

(ネットワーク型URAによる新たな価値の創造)

- 研究者個人レベルの交流が出发点となる従来型の連携協定とは異なり、「ネットワーク型URA」のつながり機能により、異分野組織間連携が構築された画期的な事例。
- 少子高齢化社会における諸課題を解決するために、ビッグデータ等を活用した医・薬・工連携の推進。
- 第5期科学技術基本計画、中央教育審議会や科学技術・学術審議会報告などで言及されている、学際的・分野融合的研究や大学間連携の推進。

現在計画中のプロジェクト(1)

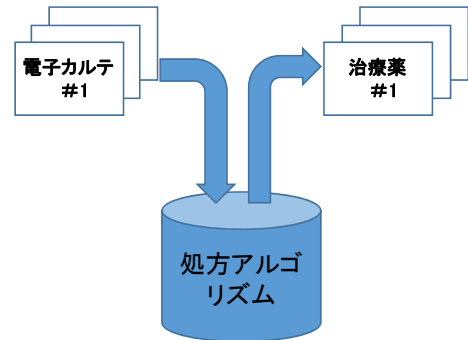
◆多様な病態に応じた適切な治療薬の処方 可能とするビッグデータ解析による処方アル ゴリズムの研究

●背景と目的:

- ・患者数の多い疾病の治療法の確立や創薬等につながるビッグデータ解析の社会的要請が増大。
- ・電子カルテに保存されたビッグデータを対象に効率的な治療アルゴリズムを開発。
- ・例えば、糖尿病の多様な病態に適した治療法の確立と普及が不可欠。

●具体的な内容:

電子カルテより糖尿病患者の処方内容と検査結果を抽出し、患者をクラスター化することで治療薬の病理への影響を分析するとともに、最適な糖尿病治療薬処方アルゴリズムを研究。



現在計画中のプロジェクト(2)

◆高齢者の効率的歩行機能の改善に役立つ 高度歩行解析システムの研究

●背景と目的:

- ・高齢者の運動能力の維持や寝たきり防止による健康寿命の延長と生活の質向上
- ・運動機能障害(ロコモティブシンドローム)に対する各種治療法の評価方法の確立
- ・高齢者の歩行機能を正確に計測する解析システムの開発とビッグデータの活用

●具体的な内容:

高齢者の診療施設への設置を目指した高度歩行解析システムを開発研究し、加齢による歩行機能の変化、および治療や投薬による効果を検証するとともに、高齢者の歩行機能の指標化も研究。





運動の生活カルチャー化により活力ある未来をつくるアクティブ・フォー・オール拠点

ビジョン(実現すべき未来)

活力ある社会の実現 Active for All (健康・幸福寿命の延伸、寝たきりをゼロに)

紹介事例2

立命館大学 スマートウェア① 空間シェアリング② 運動誘導③	第3フェーズ:実用化・社会実装(製品化、多様化)	順天堂大学 ①ロコモ対策支援機器等 ②在宅ロコモ予防支援 ③アンチロコモサプリ
	第2フェーズ:実用化準備(基盤技術、要素技術)	

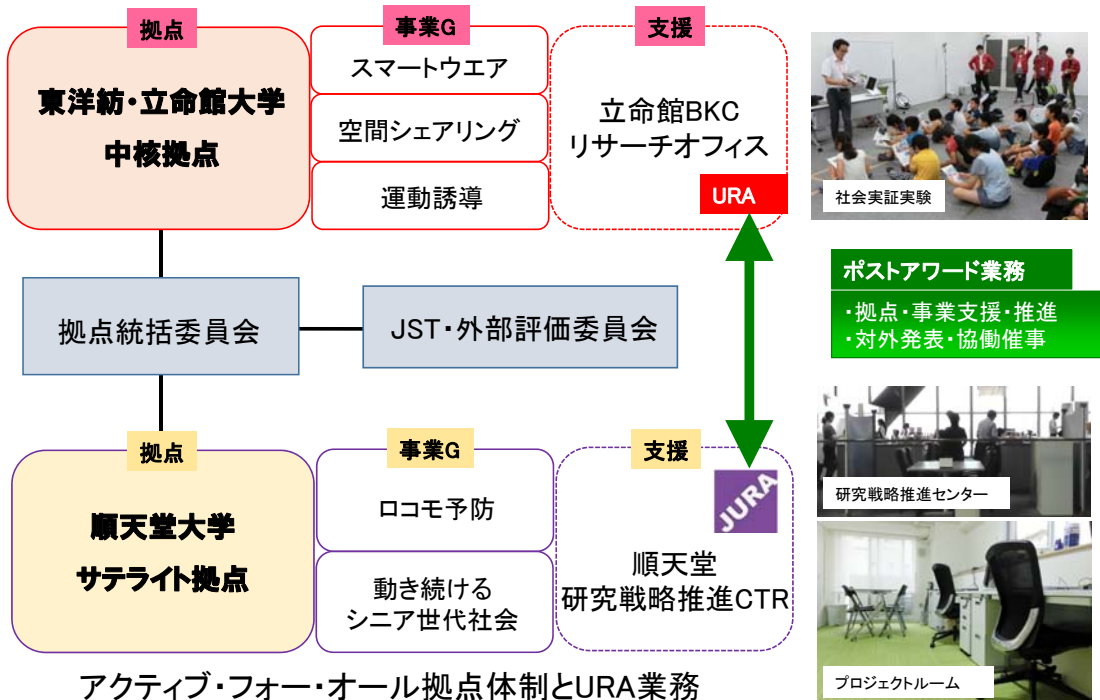


COI-URA業務

Bright Future for All Ages
with Health Innovation
by Daily Exercise

運動の生活カルチャー化により活力ある未来をつくるアクティブ・フォー・オール拠点

紹介事例2



アクティブ・フォー・オール拠点体制とURA業務



立命館大学拠点との協働催事（2015年度）

紹介事例2



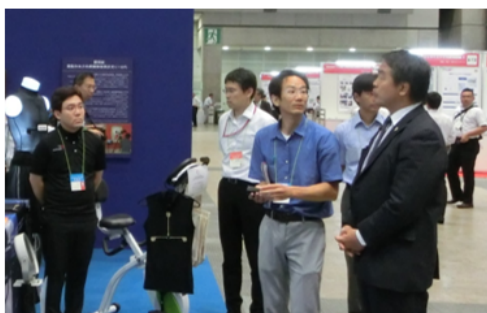
立命館大学拠点との協働催事（2016年度）

紹介事例2

プレスセミナー 11/17於立命館大学東京キャンパス



JSTフェア 8/25-26於東京ビッグサイト



サイトビジット 5/23於立命館大学OIC





紹介事例2

立命館大学との学術交流包括協定調印式



調印日 2015年10月7日
於 順天堂大学

「スポーツ・健康」と「セルフケア・医療」の融合による健康・幸福寿命の伸延、寝たきりゼロを目指す



ネットワーク型URA価値創造プラットフォーム

CoPURAの概要

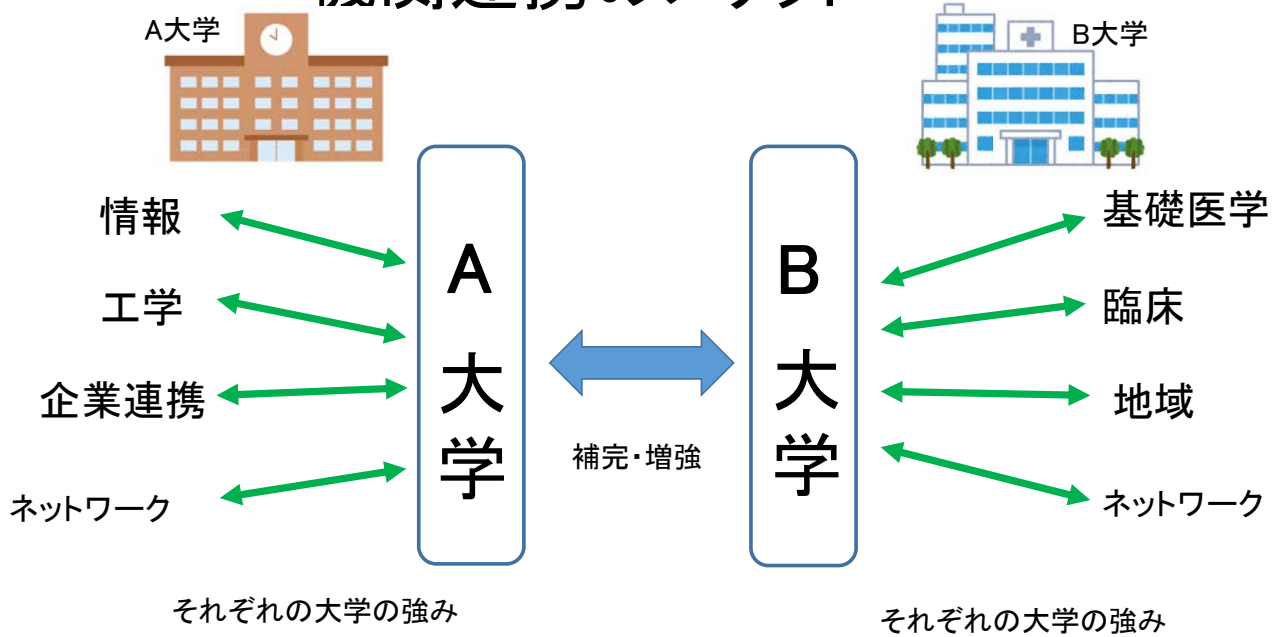
大学や研究機関における研究推進体制の整備、研究力強化を目的として、リサーチ・アドミニストレーター（URA）を始めとした研究マネジメント人材の配置が進んでいますが、URAの担当業務は所属機関の状況やニーズにより多様で広範囲に渡っています。今後、URAの普及定着とともに、URA機能の質の向上を図ることが我が国の研究力強化にとって不可欠であり、URA同士がネットワークを組み、成果やノウハウを共有することが重要です。

このため、URAの活動や成果等を発信し、新たな価値創造につなげる場として、URA同士のネットワーク活動を活性化させるプラットフォーム「CoPURA (Co-creation Platform for networking URA)」を設立しました。

CoPURAは、参加者が集い交流をする「Real」な場と、これを補完しコミュニケーションを活性化する「Virtual」な場を融合するプラットフォームです。



機関連携のメリット



機関・組織間連携における課題

- 続かない
- 負荷が大きい
- 業務管理・責任の不統一
- コミュニケーションロス
- 対応レベルのばらつき
- ビジョンの非共有

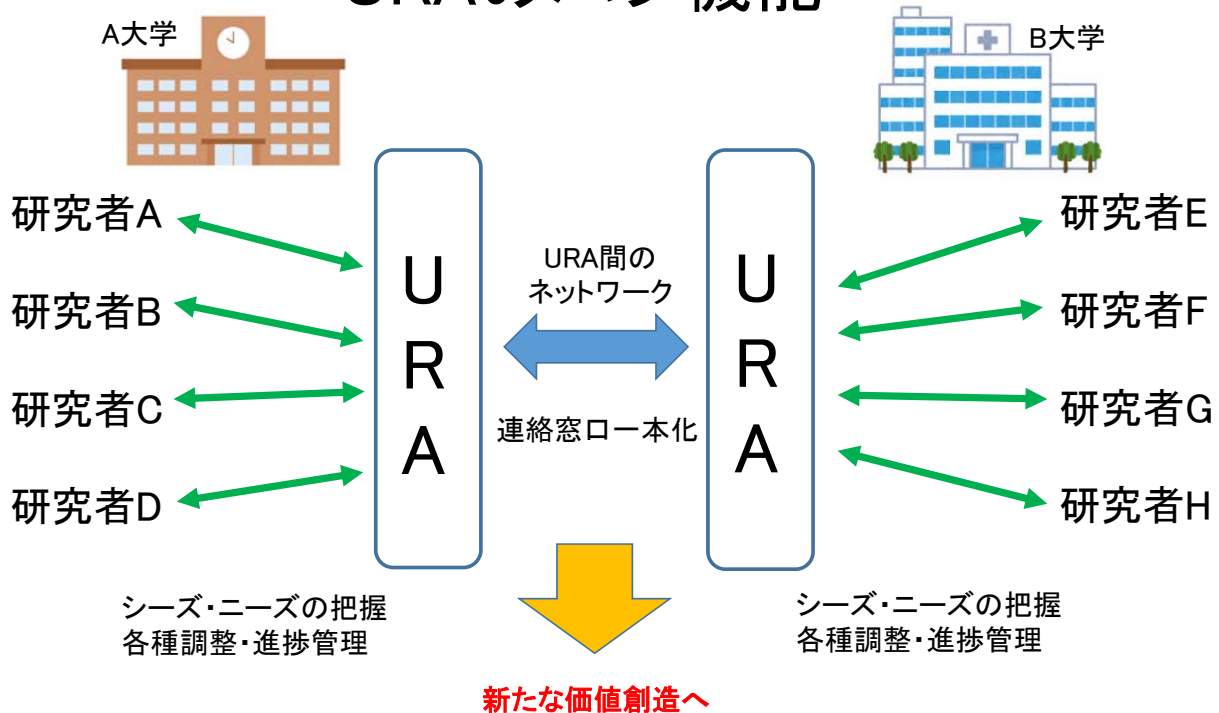
etc

機関・組織間連携における課題

成り立ちの多くの場合

- トップダウン方式
 - 運営委員会(月一程度)への研究者の会議への参加が必要
- 研究者ネットワーク方式
 - 分野限定
 - 研究者に負荷(その人限定になりがち)

URAのハブ機能





私立大学の研究力強化のために

「ネットワーク型URA」による新たな価値創造

URA間のネットワーク、ハブ機能を活用することで

- 異分野連携・共同研究の促進
- 新領域分野の開拓
- 研究費獲得
- 機関連携での大型補助金申請

ポイント！
教員・研究者の負担
削減

ポイント！
URA同士なので
仕事がしやすい

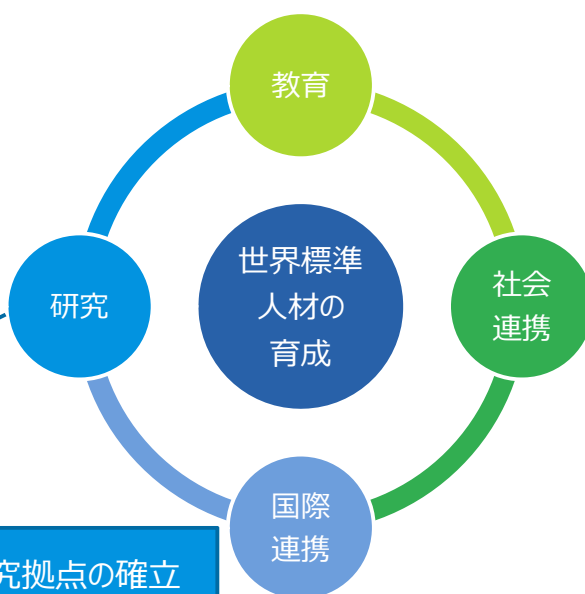
“広報”による研究推進

東海大学研究推進部研究計画課

桑田 晴香



東海大学の4つの柱

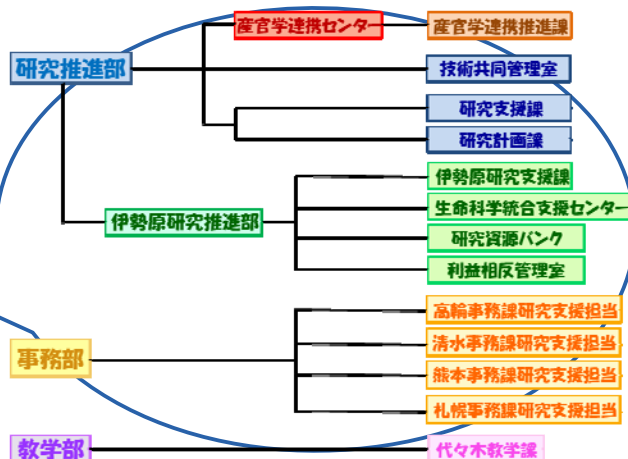


建学75周年を迎えて

「本学は建学当初から研究や技術を人の暮らしに役立てて貢献することを重視してきました。受け継がれてきた伝統をより強く打ち出し、総合大学ならではの様々な分野のコラボレートによる研究成果に基づいた学びを学生に提供することで、人々のQOL向上に寄与します。確かな力を備え高い理想を持った“世界標準の人材”を国内外に送り出すこと、それが3万人に迫る多くの学生を抱えている本学の使命だと考えています。」学長 山田清志 (朝日新聞大学力より抜粋)

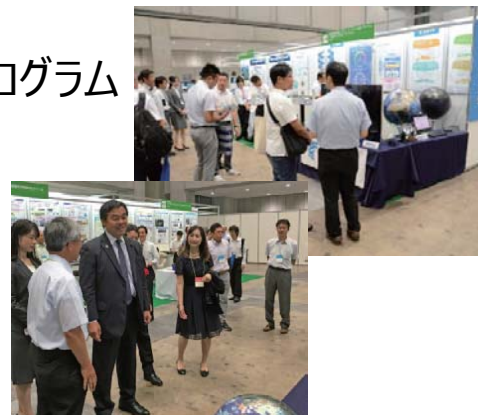
「研究」国際レベルでの研究拠点の確立
研究活動の活性化
地域連携による研究の推進
国際レベルの研究の推進
研究の峰形成とイノベーションの創生

東海大学の研究推進体制①



東海大学の研究推進体制②

- 総合研究機構（2015年度 R A 協議会私大セッション）
- 研究の峰・研究交流会（2016年度 R A 協議会私大セッション）
- 科研費プロジェクト（2016年度 R A 協議会ポスターセッション）
- 産学パートナーシップ創造展・T I A R A プログラム
- 私立大学ブランディング事業申請・事業推進
- 広報プロジェクト（2016年度～）

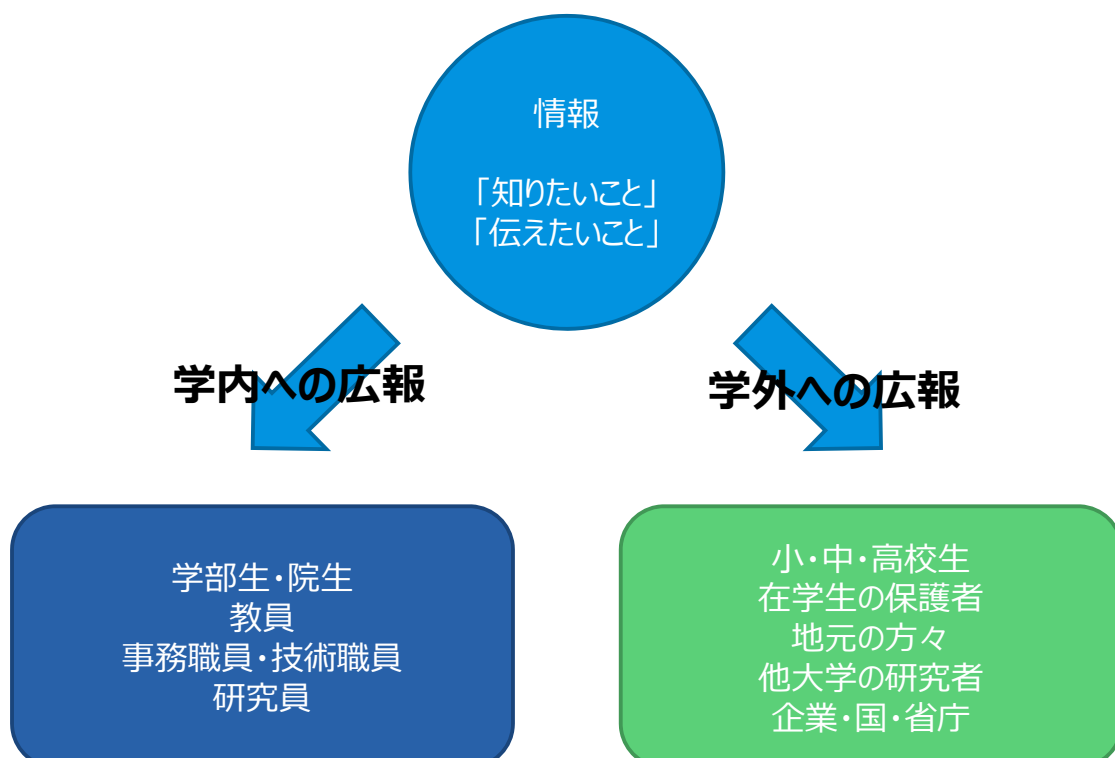


研究推進部から学内外への研究関連の広報について、部として情報共有を図り、必要に応じて連携し、効率よく情報提供を行うための課題の検討及び対応の企画・実行を行う

- 官公庁・企業・各種団体などが、施策や業務内容などを広く一般の人に知らせること。また、その知らせ。（デジタル大辞泉）
- 政府、行政機関、企業、労働組合、学校、PTAなど諸団体が、国民、消費者、住民など社会のいろいろな人々に向けて、自らの考え方、計画、実際の諸活動を知らせること。（日本大百科全書(ニッポニカ)）



“情報”を他者へ伝えること



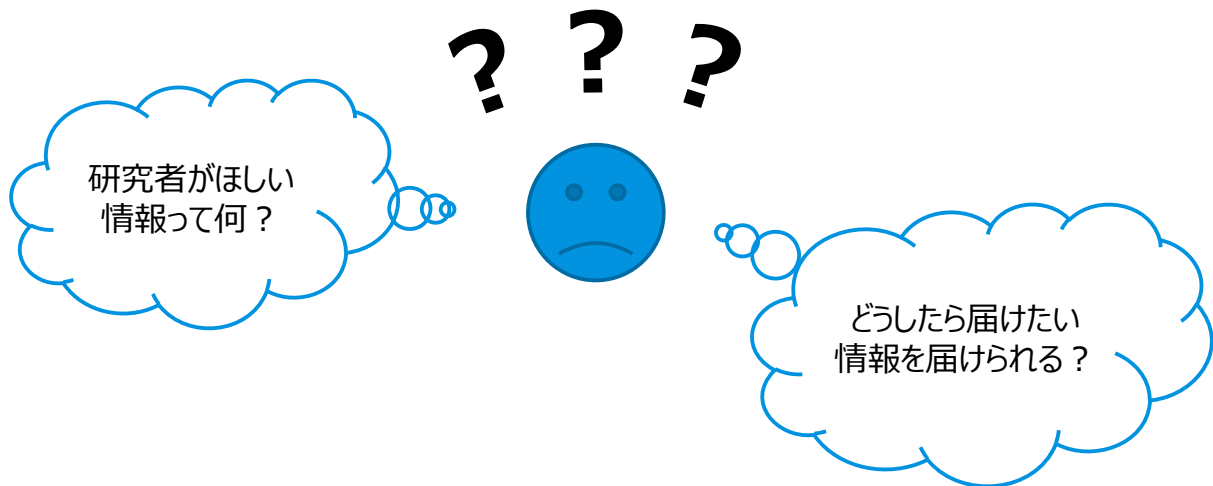
“情報”を提供するにあたって

「知りたいこと」

自分で探す
→情報を見つけ易くする

「伝えたいこと」

届ける必要がある
→最適な手段を考える



アンケート実施

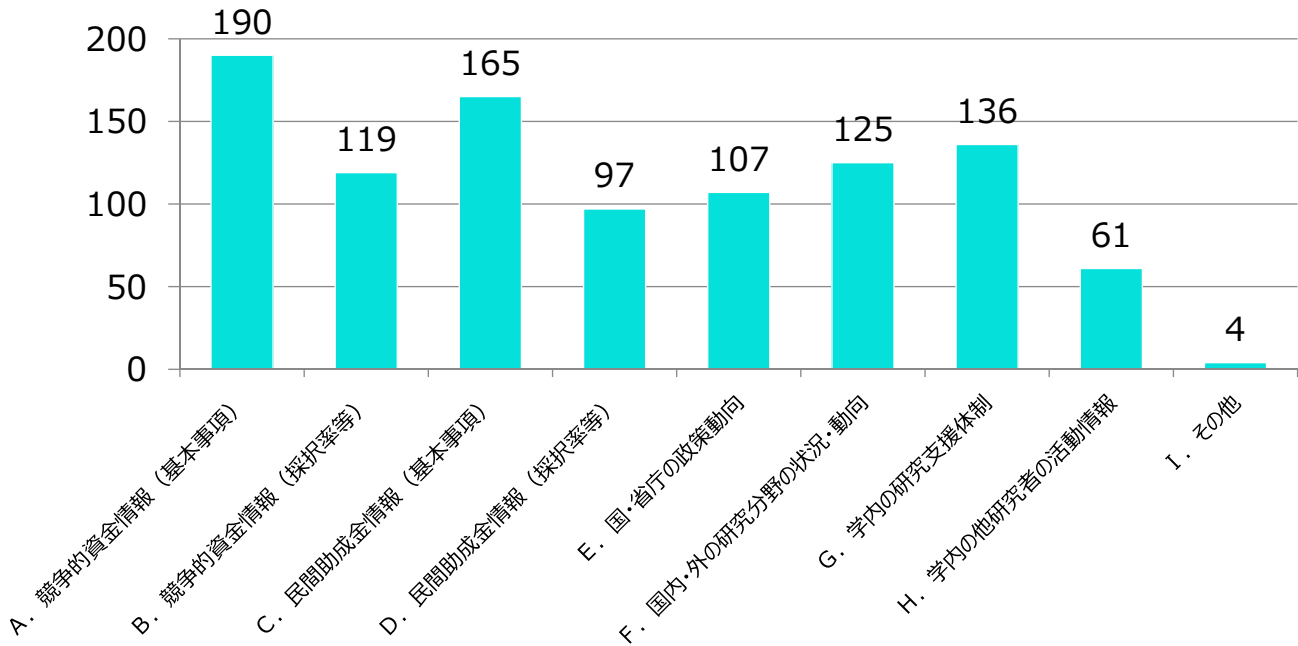
- 1) 研究にかかわる情報で必要としているものはどれですか？（複数回答可）
- 2) 研究にかかわる情報を手にする場合、どのようなものが望ましいですか？（複数回答可）

実施期間 約1ヶ月
実施方法 学内イントラネット (T365Forms)
その他 (メールでのwordファイル提供等)

回答件数 304件
〔 学内イントラネット 208件
その他 96件 〕

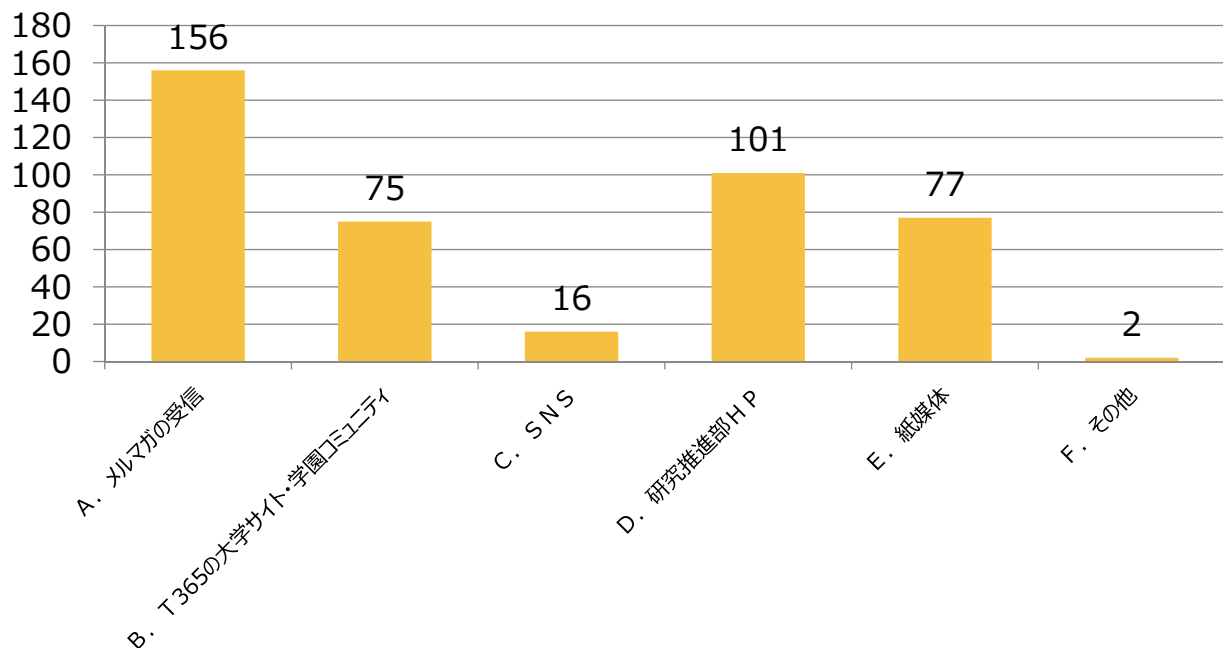
アンケート結果①

研究にかかわる情報で必要としているものはどれですか？ (複数回答可)



アンケート結果②

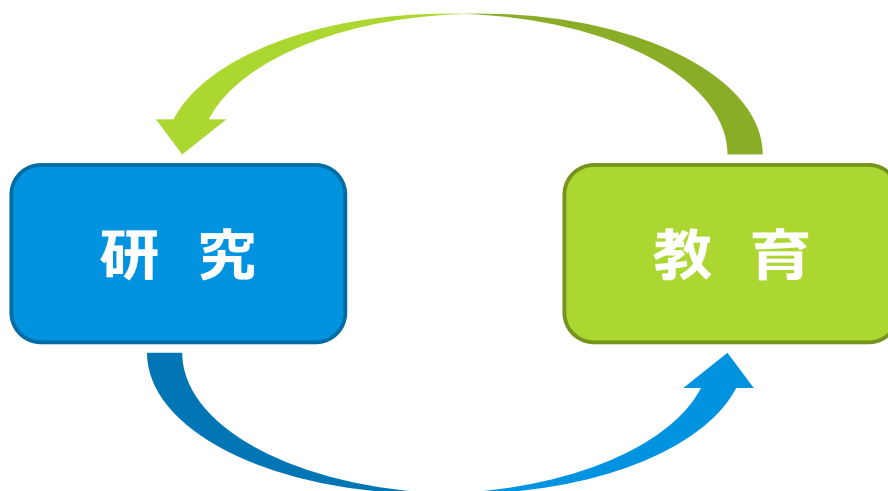
研究にかかわる情報を手にする場合、 どのようなものが望ましいですか？ (複数回答可)



その他、研究者へ向けた広報・情報提供



学内に向けた研究広報



研究推進部門に限らず“研究”に対する理解を深めることが重要

入試広報課と協力

- ・高校生向け大学案内における「研究紹介ページ」
- ・オープンキャンパスにおける「研究ポスター展示」

法人広報課と協力

- ・後援会誌における研究関係ページ
- ・学園広報誌における「科研費特集」

企画広報課と協力

- ・朝日新聞「大学力」研究関係記事
- ・公式HPの研究関係ニュース

グローバル推進本部と協力

- ・QS Asia への掲載候補者選定
- ・国際シンポジウム等開催

おわりに

- ・“研究”にかかわる情報を広く・かつ集約して取り扱うことができる
- ・事務系部署との連携
- ・研究広報の強化→大学のブランド化に一助 ★私大ブランディング事業

▼課題

- ・グローバル化への対応
- ・内容に深く踏み込めない、重要度の判定が難しい

研究推進部門全体での研究推進
研究者との教職協働

ご清聴ありがとうございました
